

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 7 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷3-8-12渋谷第一生命ビルディング7階

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号

機構 20 - 253

電話番号 03-6427-7451

代表者氏名 岡 知己

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小口敏英	経営	H2001065
	②	古畑朋子	福祉	H2301054
	③	井口智明	経営	H2001066
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ		指定番号を入力してください	
評価対象事業所名称	世田谷区立中丸小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0003		
	所在地	東京都世田谷区野沢3-33-12		
	TEL	03-3424-3022		
事業所代表者氏名	仲田道夫			
契約日	2024 年	5 月	9 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年	9 月	6 日	
利用者調査結果報告日	2024 年	9 月	20 日	
自己評価の調査票配付日	2024 年	9 月	6 日	
自己評価結果報告日	2024 年	9 月	20 日	
訪問調査日	2024 年	11 月	22 日	
評価合議日	2025 年	2 月	7 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者本人・保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にておこない回答して本評価機関へ返送形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>(1)命を守られ成長できること (2)子どもにとって最もよいこと (3)意見を表明し参加できること (4)差別のないこと</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの頭で考え、他の職員と連携することができる ・子どもの利益を最優先に考えることができる <p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>チームで業務にあたっているため、利用者だけでなく、他の職員にも協力する姿勢をもって業務に臨んでほしい。</p>

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。31世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

125

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
125	0	125
31	0	31
24.8	0.0	24.8

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が61.3%、「満足」は32.3%、「どちらともいえない」が3.2%、「不満」が3.2%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて93.6%という、大変高い評価を得ています。自由記述では「工作用の箱が沢山ある所が好きです。」「おやつがジュースがリンゴ、ミカンと選べる所が好きです。」「楽しいです。」というコメントのほか、校庭遊びの時間を増やして欲しい、昼食の時間を充分にとってほしい、新しい玩具がほしい、という意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
コメント				
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	23	5	2	1
この項目では「はい」の回答が74.2%、「どちらともいえない」は16.1%、「いいえ」が6.5%、「無回答・非該当」は3.2%という結果となりました。自由記述では、同じ繰り返しでつまらなくなって来た、暇になってしまうことがある、という意見が寄せられていました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	20	2	3	6
この項目では「はい」の回答が64.5%、「どちらともいえない」は6.5%、「いいえ」が9.7%、「無回答・非該当」は19.3%という結果となりました。自由記述では「言葉で伝えるのが難しい状況ですが、こどもの気持ちを汲み取る努力をしてくれていると思います。」というコメントがありました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	23	5	2	1
この項目では「はい」の回答が74.2%、「どちらともいえない」は16.1%、「いいえ」が6.5%、「無回答・非該当」は3.2%という結果となりました。自由記述では「暑い日のアイスが楽しみです。」というコメントのほか、おやつが少量、という意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	11	3	1	16
この項目では「はい」の回答が35.5%、「どちらともいえない」は9.7%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は51.6%という結果となりました。自由記述では「こどもの気持ちを汲み取る努力をしてくれていると思います。」「意見を言ったことがありません。」「イベントなどはやったことがありません。」というコメントがありました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	22	5	1	3
この項目では「はい」の回答が71.0%、「どちらともいえない」は16.1%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は9.7%という結果となりました。自由記述では「言葉で伝えるのが難しい状況ですが、本人の気持ちを汲み取る努力をしてくれていると思います。」というコメントがありました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	6	1	4
この項目では「はい」の回答が64.5%、「どちらともいえない」は19.4%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は12.9%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	24	3	0	4
この項目では「はい」の回答が77.4%、「どちらともいえない」は9.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は12.9%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	26	1	1	3
この項目では「はい」の回答が83.9%、「どちらともいえない」は3.2%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は9.7%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	0	1	4
この項目では「はい」の回答が83.9%、「どちらともいえない」0%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は12.9%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「助けてくれていると思います。」というコメントがありました。				
10. こどもの気持ちを尊重した対応がされているか	21	4	1	5
この項目では「はい」の回答が67.8%、「どちらともいえない」は12.9%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は16.1%という結果となりました。自由記述では「言葉で伝えるのが難しい状況ですが、こどもの気持ちを汲み取る努力をしてくれていると思います。」というコメントがありました。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	13	2	1	15
この項目では「はい」の回答が41.9%、「どちらともいえない」は6.5%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」は48.4%という結果となりました。自由記述では「内緒の話をした事ないので分かりません。」「守ってくれそうです。」というコメントがありました。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	19	3	2	7
この項目では「はい」の回答が61.2%、「どちらともいえない」は9.7%、「いいえ」が6.5%、「無回答・非該当」は22.6%という結果となりました。自由記述では「伝えるのが難しいですが、汲み取ろうとしてくれていると思います。」「困った事がないので分かりません。」というコメントがありました。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	2	6	17
この項目では「はい」の回答が19.4%、「どちらともいえない」は6.5%、「いいえ」が19.4%、「無回答・非該当」は54.7%という結果となりました。自由記述では「困ったことがないので分かりません。」というコメントがありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	<p>自治体の運営方針を多様な方法で職員と保護者に周知して浸透を図る取り組みがあります</p> <p>事業所では、世田谷区放課後健全育成事業の運営方針に従い、職員は自治体の新任研修や年次研修を受講しています。施設では運営方針チェックリストを職員に配付して年度始めのミーティングで7つの目標について考える機会を設けています。また、事務室に理念や方針を掲示し、職場内研修や児童館長とのヒアリングを通じて業務への取り組みをフィードバックしています。保護者に対しては、入会説明会で取り組みや日常の流れを説明し、年3回の個人面談で情報共有をおこない、保護者会でプロジェクターを使用してこどもの様子を伝える工夫をしています。</p> <p>理念の実現に向け、自治体や系列施設と連携を取り合い職員に共有する仕組みがあります</p> <p>理念実現のため、児童館長は毎月の館長会で児童課からのメッセージを共有し、児童課の目標などを職員に周知しています。事業所内の課題検討委員会を毎月開催し、各施設から集まった担当者が改善策を検討しています。職員会議では、野沢児童館と4つの新BOPの職員が集まり情報共有をおこなっています。年度当初の事務局長会で確認した運営基準や方針の改訂内容を、ミーティングで職員に伝えています。新BOP運営基準をパソコン内のデータや書庫で閲覧できるようにし、職員全員がいつでも確認できる仕組みを整えています。</p> <p>重要案件の決定方法と伝達システムを定め周知を徹底する組織的な仕組みがあります</p> <p>重要案件の検討や決定手順は、自治体の児童課と課題検討チームでの協議から始まり、幹事館長会、館長会を経て毎週金曜日の職員会議で常勤職員に伝えられ、その後施設のミーティングで全職員に周知しています。欠席職員への周知漏れを防ぐため、議事録や活動日誌、ノートでの記名確認を徹底しています。施設内での検討事項は、日々のミーティングや月1回のロングミーティングで話し合い、必要に応じて児童館長や児童課に確認しています。保護者への連絡は、学童クラブだより、放課後児童システムメール、連絡ノートを通じておこなっています。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者と職員の意見を収集して検討し、迅速に運営に反映させる仕組みを構築しています</p> <p>保護者のニーズを収集するため、送迎時の会話、連絡ノート、電話対応を通じて対話し、より良い支援や個別の対応について情報交換をおこなうほか、学期ごとに3回の保護者会と個人面談を実施して意見を収集しています。児童には直接会話の中で遊具や書籍の希望を聞いて寄付を募ったり購入をしています。職員の意向は日々のミーティング内で把握する機会を設けているほか、年に1回、児童館長が児童指導・指導員とヒアリングをおこなっています。行事の企画は職員が分担して担当者が案を作成し、ミーティングで他の職員と意見を交わし改善しています。</p> <p>地域ニーズや業界動向の把握と中長期計画を反映した計画的な運営をおこなっています</p> <p>地域や業界のニーズを収集するため、子育て支援センター職員との実務会議で情報交換や交流する機会を設けています。業界動向は館長会や事務局長会、児童課からのメールで把握しています。得た情報を基に職員会議やミーティングで課題を抽出し、対応を検討しています。中長期計画として、「世田谷区子ども計画第2期後期計画」令和2～6年度に沿って5年ごとに更新しています。また、世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針をもとに実践内容を共有し、毎年事務局長が年度ごとの中丸小新BOP運営計画や年間行事計画などを作成しています。</p> <p>計画の実行状況を定期的に確認し必要に応じて見直しをおこなう仕組みを構築しています</p> <p>7つの運営方針チェックリストを用いた計画の推進方法や目標、達成度合いを測る仕組みがあります。進捗状況の確認と見直しは、毎月のロングミーティングでおこない、振り返りや改善点を話し合っています。また、課題検討委員会では、具体的な解決策を話し合い、計画の見直しをおこなっています。計画書や報告書には評価・反省の欄を設け、次期計画に反映させています。保護者のニーズに即した提案を反映し、サービスの手順等を随時見直して改善を図っています。児童指導職員は児童館長とのヒアリングで目標シートを作成し、課題を確認しています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>職員がコンプライアンスへの理解を深めるため内外の多様な研修で学ぶ機会があります 法律や規則、コンプライアンスへの理解を深めるため、職員はコンプライアンスに関する職場内研修や各種研修に参加して理解を深めています。また、行事の前にも関連研修を実施しています。新BOP運営基準はパソコン内のデータや書庫で共有し、全職員が閲覧できるようにしています。毎年の職員契約更新時に就業規則を再確認し、同意を得て自治体に提出する仕組みがあります。ミーティングでは利用者対応の事例を話し合い、意識の徹底を図っています。職員に対するハラスメントや法令違反に関する相談窓口の連絡先を事務室に掲示し周知しています。</p> <p>苦情解決と虐待防止に向けた組織的な仕組みと体制、外部との連携体制を整備しています 保護者の意向や苦情に対応するため、事業所のパンフレットに苦情や相談連絡先を掲載し、簡易な苦情は事務局長が直接対応し、大きな苦情は区が対応する体制を整えています。区民の声で共有された苦情は児童課と協議し、自治体のホームページで回答を公表しています。虐待防止のため、接遇研修や虐待予防研修を受講し、児童虐待防止と対応マニュアルや虐待が疑わしい時の冊子を事務室に設置しています。虐待の疑いがある場合は、子ども家庭支援センターと連携し、必要に応じて児童相談所に通報する体制を整えています。</p> <p>地域との関係づくりに努め、地域交流や地域貢献の活動に積極的に取り組んでいます 連絡協議会を開催し、小学校教職員や地域の方々に情報を公開しています。また、児童館主催の地域懇談会、地域協議会、学校運営委員会などに参加して情報共有と連携を図っています。地域貢献として、緑陰子ども会でかざぐるま工作のブースを運営し、児童館まつり「えんにち」では児童が自分たちでお店を運営したりステージに出演したりしています。こどもたちが大人に接する機会や行事の役割などを通じて地域の中で活動できるよう、児童館のイベントに積極的に参加しています。通学路の安全確保にも努め、職員が日頃から見守りをおこなっています。</p>		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(00000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>日々の安全確認と職員の高い意識で事故を未然に防ぐ取り組みに努めています</p> <p>施設独自に作成した活動日誌内に安全確認チェック欄を設け、毎日の安全確認をおこなっています。また、自治体が定めた新BOP安全対策マニュアルに基づき、新BOP安全対策チェックリストを毎月実施し報告しています。ヒヤリハットの共有は日々のミーティングでおこない、対応策を全員で話し合っています。毎日、施設前の通学路の見守りを実施しています。課題検討委員会では、現場の職員の意見を取り入れながらマニュアルを策定しています。看護師を招いての職場内研修や、嘔吐や緊急対応、エビペン、AEDの使用方法などの研修も実施しています。</p> <p>非常時に備え災害・緊急時の安全対策と避難訓練をおこない体制を確認しています</p> <p>災害・緊急時など非常時に備え、自治体の防災マニュアルと新BOP安全対策マニュアルに従い、安全対策を講じています。災害時の避難場所として小学校を利用することを想定し、事前に学校へ通告して年3回、地震・火災・不審者侵入を想定した避難訓練を実施し、子どもたちが自分で身を守ることを重視しています。不審者訓練では、児童館長が不審者役を務め、施設内外での対応を確認しています。また、自治体が策定した事業継続計画に準じた体制を整備し、災害や重大な事故に備えています。保護者には入所案内で対策について周知しています。</p> <p>個人情報の取り扱いを明示し個人情報保護の徹底と適切な管理体制を整備しています</p> <p>自治体の文書管理規程に則り、個人情報などの収集、利用、保管、廃棄についてのルールを定めています。職員会議で個人情報管理に関する研修内容を共有し、各職場でのミーティングで全体周知しています。職員は入退職時に誓約書を提出し、自治体のコンプライアンス研修や年次研修で個人情報保護について学んでいます。個人情報はファイル分けして鍵付き書庫で管理し、書類や情報は役職によって閲覧限定しています。パソコンは管理職のみアクセス権限を設定して使用し、個人記録はイニシャルを用いて管理するなど情報漏えい防止に努めています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>職員の採用活動は自治体と連携しておこない、適材適所の人員配置に取り組んでいます</p> <p>人材確保において、事務局長は地域学校連携課、児童指導は世田谷区の人事課、指導員は児童課が採用活動をおこなうなど、役職に応じて採用プロセスを分け、自治体が一括採用しています。プレイングパートナー臨時職員は、事業所の事務局長が面接をおこない採用しています。人材確保の工夫として、近隣の大学にポスターを掲示しています。また、希望する指導員には児童指導の試験を受験する機会を設けるなど、キャリアアップの道を開いています。人員配置は、本人の希望や将来性、事業所の現状を考慮して適材適所でおこなう仕組みがあります。</p> <p>自治体や児童館によるさまざまな研修機会があり職員の成長を支援しています</p> <p>「世田谷区人材育成方針」に基づき、職員に求められるスキルや資質を明示しています。指導員には階層があり、勤務年数や資格に応じて昇格する仕組みがあります。研修計画は児童館の研修委員会で一律に作成され、基本研修、専門研修、必須の年次研修と任意の研修があります。研修形態は集合型、オンライン、職場内など多様で、専門性の高いものは外部講師を招いて実施しています。外部研修参加は出勤扱いとし、余裕を持った人員配置で参加しやすい環境を整えています。研修後は報告書を提出し、ミーティングで内容を共有する仕組みがあります。</p> <p>職員の状況を把握し、職員間の親睦を深め、働きやすい環境づくりに努めています</p> <p>毎日のミーティングやロングミーティングで、職員が業務に関する思いを話し合う機会を設けています。また、事務局長や児童館長との個別面談も実施しています。職員間の良好な関係構築のため、ロングミーティング内でレクリエーションをおこない、お互いの良いところを共有する機会を設けています。イベント後の反省会では、成功点を共有し次につなげる工夫をしています。休暇制度の充実を周知し、必要な職員が取得しやすいよう配慮しています。さらに、共済組合の福利厚生制度に加入し、職員の健康状態に応じて病休などの対応もおこなっています。</p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度、事業所では、配慮が必要な児童を受け入れた上での安全確保を重要課題として設定しました。この課題は、個別に配慮が必要な児童の入所に伴い、職員の人手不足や他児への被害防止のための工夫が求められたことから抽出されました。児童票、ノート、活動日誌の連絡事項欄を活用して、配慮児の記録を詳細に取り、毎日のミーティングで前日の様子を職員全員で共有しました。また、配慮児の利用時には1名の職員を専属で配置したため、全体の活動を制限する日が多くなりました。この結果、他の児童の活動が制限され、不満が高まりました。振り返りでは、全体の児童の利益を考慮し、配慮児のみに集中せず、可能な限り全体への支援をおこなう方針に転換しました。今年度は、すべての児童が参加できる活動やイベントを工夫し、要配慮児と健常児の垣根をなくす取り組みを進めています。職員間では、トラブル発生時の対応について都度話し合い、情報共有を重視しています。また、要配慮児への研修を受けた職員からの共有や、事務局長による他施設の事例紹介などもおこなっています。将来的には、要配慮児の自立支援や中学校生活に向けた援助、職員のスキルアップを目指しています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

施設では、前年度、個別に配慮が必要な児童の入所が数名あったため、職員の人手が不足するだけでなく、他児への影響が出ることを防ぐため、配慮が必要な児童を受け入れた上での安全確保を重要課題としました。配慮児の利用時は職員1名が専属で付くため体制の都合上、全体の活動で校庭遊びなどを制限する日が多くなり、他の児童から不公平感や不満が強く出る状態となっていました。この状態に対応するため、要配慮児と健常児と一緒に過ごす中でお互いに成長するために、垣根をなくし、公平な扱いを方針とする取り組みをおこないました。その実現のため職員は、毎日記録と振り返りをおこない共有に取り組み、日常の中での話し合いを重要視して、トラブルがあった際には都度話し合い、職員皆が同じレベルに立てるようにスキルアップに努めました。施設では改正児童福祉法を根拠にしつつも、区別や差別をしないように健常児と一緒に遊んで成長してほしい、仲良く遊んで過ごしてほしいという思いを共通意識としています。職員は、要配慮児の成長と自立を願い、中学校での生活に向けての援助を進め、多様な症状のこどもにも対応できるようにスキルアップに取り組む予定があり期待します。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度、事業所ではデリバリー弁当の実施と延長利用の導入を重要課題として設定しました。これは自治体の学童クラブ全体の取り組みとして実施されることになったためです。デリバリー弁当については、保護者への周知をおこなう際に選択肢の一つとして提示し、他の昼食対応も可能であることを伝えました。延長利用については、事前登録を依頼しつつ、当日の緊急利用にも柔軟に対応しました。取り組みの結果、デリバリー弁当を選ぶ家庭は2割程度となり、他の家庭も手作り弁当以外の昼食を持参する率が増加し、保護者の負担軽減につながりました。延長利用は2年生になると自分で帰る児童が増え、利用率は結果的には横ばいとなりました。今後の方向性として、デリバリー弁当について夏休みは8月のみ、冬休みは全日対応する予定です。延長利用については、2年生になったら一人で帰れるように促していく方針です。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業所では、前年度、自治体の方針によりデリバリー弁当の導入の実施をおこないました。保護者の負担軽減のための自治体の取り組みで、施設では保護者への周知をおこなう際に、あくまでも選択肢の一つとして周知をし、買ってきたパンや総菜などでも昼食対応をする旨を伝えました。これがきっかけとなり、デリバリー弁当の利用だけでなく、手作り弁当ではない昼食を持参する率が増え、保護者の負担軽減につながる取り組みとなっています。また、同様に自治体の方針による延長利用の実施もおこないました。延長利用については、事前登録を依頼しつつ、当日の緊急利用については柔軟に利用できるような対応しています。職員は笑顔で仕事帰りの保護者を迎え、柔軟な対応に感謝を伝えられる取り組みとなっています。今後も継続して、変わりゆく世の中の流れに合わせた対応への取り組みに期待します。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリー1の講評		
<p>世田谷区ホームページや児童募集案内で、事業所の情報を得ることができます</p> <p>事業所に関する情報は、世田谷区公式ホームページや「新BOP学童クラブ児童募集案内」などから情報を得ることができます。公式ホームページでは、新BOP学童クラブの説明や概要、入会申し込み方法、対象児童、入会基準など、利用希望者に必要な情報を詳しく提供しています。また、就学前の子どもや保護者に向けては、小学校でおこなわれる就学前健診の際に「新BOP学童クラブ児童募集案内」を配布し、事業所について知ってもらう機会を設けています。さらに、管轄の児童館にも案内を設置し、情報発信をおこなっています。</p> <p>事業所では、利用希望者の特性に合わせ、それぞれに考慮した情報発信をしています</p> <p>世田谷区公式ホームページでは、新BOP学童クラブ児童募集案内や、学童クラブの情報を詳細に載せるほか、配慮を要することの受け入れ体制についても記載しています。また、外国籍の方のための英語版の入会申込書や、必要に応じて、翻訳機の活用も検討しています。保育園などには、ポスターを掲示し、情報提供しています。ホームページの更新は、児童課の児童育成担当係が年1回、10月におこない、最新情報を提供しています。そのほか、世田谷区とは館長会を通し、学童クラブの意見を集約して報告をおこなうなどの情報共有を図っています。</p> <p>見学の際は、自立に向けた支援内容や放課後のともだち作りの場であると伝えています</p> <p>事業所の見学は、年間を通して随時おこない、電話での申し込み、または直接の見学にも対応しています。見学の案内は、児童指導職員と会計年度任用職員が対応をおこなっています。見学の際は、各部屋の案内や、事業所について説明をおこない、自立に向けた支援内容や放課後のともだち作りの場であることを丁寧に説明し、退会後は、BOPへ移行できることも伝えています。また、配慮が必要な子どもの環境について相談があった際は、入会後の面談にて保護者と話し合い、子どもにとっての最適な環境の検討に取り組んでいます。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>保護者には、事業所での生活について説明し、必要に応じ同意書を交わしています 入会説明会では、「学童クラブのごあんない」に沿って保護者に事業所について説明をおこなっています。また、一日の流れについても記載し、入会後の生活の様子を伝えています。配慮が必要な子どもの保護者には、こどもの特性や配慮点を児童票に記入、提出の願いと、情報開示の同意書を交わしています。保護者の同意が得られない場合は、ミーティング内で職員に周知を図っています。そのほか、事業所の利用者負担金については、口頭での説明や新BOP学童クラブ児童募集案内に記載し、保護者の理解を得ています。</p> <p>こどもの個別事情や要望を記録し、新しい生活に慣れるための環境を整えています こどもの個別事情や要望は、入会申請書で確認しています。児童票やアレルギー調査票を提出する保護者とは、個別面談を実施し、配慮事項などを把握、記録しています。また、面談で得られた情報は、職員間で共有、配慮点を確認しながら支援に取り組んでいます。新1年生の入会直後は、集団生活でストレスにならないように部屋の移動を限定し、室内の雰囲気慣れる環境を整えています。さらに、入学式前から事業所の生活が始まることを考慮し、4月1日の初日は、細かい部分での配慮や安全面にも留意し、安心して過ごせるように取り組んでいます。</p> <p>発達面で特に配慮が必要な子どもには支援内容を話し合い特性に合う環境を整えています 発達面で特別な配慮を必要とする子どもには、児童票と入会前に在籍していた保育園で提出する生活管理票をもとに保護者と面談をし、支援内容について話し合っています。また、こどもの特性に合うクールダウンスペースを設けるなど環境を整え、落ち着いて遊べるよう支援しています。アレルギー対応の子どもには、学校で実施するアレルギー面談に同席し、配慮点を把握しています。そのほか、退会する子どもには、いつでも相談ができる体制が整っていることを伝えています。また、卒所イベントの開催をおこない、3年生を招待して温かく送り出しています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

年間の育成支援の目標を立て、こどもが主体的に過ごせる居場所作りを目指しています

年間の育成支援の目標を立て、新BOP年間計画に盛り込み、こどもが主体的に過ごせる居場所作りを目指しています。育成支援の目標は、年度末に事務局長と児童指導職員が話し合い策定しています。また、支援目標は、児童館の館長に提出し、確認をおこなっています。さらに、育成支援の計画は、学年毎に課題を設定し、支援内容を記録しています。そのほか、発達面で特に配慮が必要なこどもには、児童票の作成をおこない、配慮が必要な内容を保護者と確認し、相談したうえで支援計画を立て記録しています。

こどもに関する必要な情報は、ミーティングで話し合い、共有内容を記録しています

こども一人ひとりに関する必要な情報は、ミーティングで話し合い、内容を児童情報ノートにまとめ記録しています。育成支援の計画に関わる援助内容は、保護者との個別面談などで振り返り、記録をおこなっています。さらに、月一回のロングミーティングは、振り返りをおこない、支援内容の見直しに取り組んでいます。また、発達面で特に配慮が必要なこどもについては、個別の記録ノートを作成し、必要に応じ記録しています。事業所では、こどもの成長の記録をおこない、適切な支援の提供に努めています。

こどもや保護者の情報は、各ミーティングで周知を図り、職員間での共有に努めています

育成支援の計画の内容や記録は、書庫に保管し、職員間で共有を図っています。また、こどもや保護者の状況に変化があった場合は、毎日のミーティングで話し合い、共有を図り、活動日誌にまとめています。夕方に実施するプレイングパートナーミーティングでは、その日気になったこどもの様子や怪我、事故、個別対応などを詳細に記載し、職員全体での情報共有に努めています。職員は、こどもに対する理解を深めるために、日常的にミーティング内で積極的に話し合い、職員一人ひとりが意識をもって学童クラブの業務に取り組んでいます。

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>職員は、こどもの個人情報保護に注意をはらい、羞恥心への配慮にも取り組んでいます</p> <p>外部とこどもの情報についてやり取りする際は、保護者に同意を得たうえで、情報提供をおこなっています。また、特別な配慮が必要とするこどもの保護者には、関係機関への情報提供について同意書を交わしています。そのほか、行事などでこどもの写真を撮る際は、申込書と合わせて写真掲載の同意を得るようにしています。学童クラブ内で排泄を失敗した際には、こどもの羞恥心に配慮して、基本的には同性介助をおこない、着替えの際はスムーズな対応を心がけています。また、身体に触れる際は必ず本人の同意を得て介助をおこなっています。</p> <p>職員は、こどもを一人の人間として接することを心がけ、尊重した関わりに努めています</p> <p>職員は、こどもを一人の人間として接することを心がけるなど、人権を尊重した関わりに努めています。こどもの意見を聞く際は、気持ちに寄り添い、共感する言葉かけを心がけています。また、こどもの名前を呼ぶ際は、「さん」「ちゃん」「くん」付けで呼ぶよう、こどもの人権を尊重し、関わっています。そのほか、保護者とは、お迎え時の会話や個人面談を通して、子育てへの価値観や生活習慣の把握をおこない、時代に合った多様な考えを理解したうえで、共感し、職員の価値観を押しつけないよう心がけています。</p> <p>保護者や学校と連携を図り、こども同士で起こる問題解決に向かい、取り組んでいます</p> <p>こども同士の暴力やいじめなどの予防、再発防止のために、トラブルが発生した際は、職員は速やかに対応し、職員間で情報共有をおこない、対応にあたっています。また、当事者であるこどもや、関係者などにも状況を聞き取り、原因を明らかにし、問題解決に取り組んでいます。場合によっては、保護者にも周知を図り、話し合いもおこなっています。そのほか、学校でも同じ問題があると分かった際は、学校とも情報共有を図り、連携しながら問題解決に向かって取り組んでいます。</p>			

サブカテゴリ-6				
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
	●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評				
<p>各マニュアルは、業務手順内容を明確にし、職員はいつでも確認することができます</p> <p>事業所のマニュアルは、世田谷区の児童課で作成し、業務手順内容を明確にするとともに、整備しています。また、世田谷区放課後健全育成事業の運営方針や安全対策マニュアルを含む各マニュアルは、事務所に設置し、会議で周知を図っています。職員は、業務に関して分からないことが起きた際、マニュアルをいつでも確認することができます。アレルギー対応マニュアルに関しては研修で学び、嘔吐処理の際は、迅速に対応できるよう、マニュアルをバケツに貼るなど、職員の誰もが同じ対応ができるよう整備をおこない、業務の標準化を図っています。</p> <p>事業所の業務手順などは、職員の動きを考え、見直しや改善に取り組んでいます</p> <p>事業所で提供しているサービスの基本事項や手順などは、世田谷区の児童課で管理し、変更をおこなっています。また、事業所内でも、ロングミーティングで、実際の動きを考えた見直しをおこない、随時、改善を図っています。職員が記入する活動日誌の安全確認チェック欄に関しては、職員の動きや、現場の意見を吸い上げ、改善や追記などに取り組んでいます。そのほか、各地域の施設から選出した児童指導職員が、課題検討委員会に参加し、全体的なマニュアルや手順書の見直しなどの検討をおこなっています。</p> <p>職員は、チェックリストを活用し業務を振り返り、サービスの質の向上を目指しています</p> <p>事業所では、サービスの見直しの際、子どもや職員からの意見を反映するように努めています。2024年度は、子どもからの要望で、玩具の展示場所の設定をしています。職員からの提案では、子どもと一緒に製作した季節の飾りの展示など環境整備に取り組んでいます。また、職員一人ひとりが放課後健全育成事業の運営方針の確認や、7つのチェックリストを活用し、子どもの最善の利益を考えた業務が遂行できるよう、振り返りに取り組み、各マニュアルの活用も合わせて、サービスの質の向上を目指しています。</p>				

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	27/29
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している	評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>職員は、こどもの姿について話し合い、一人ひとりに合わせた援助を心がけています</p> <p>こどもの家庭環境や配慮事項、特性については、入会時の新BOP学童クラブ入会申請書や児童票で把握をおこなっています。また、ミーティングでも職員間でこどもの姿について話し合い、配慮点などを共有し児童情報ノートに記録しています。職員は、こどもに関する配慮事項の把握に努め、一人ひとりに合わせた援助を心がけています。集団のなかで一人で過ごしているこどもには、様子を見守り、遊具の場所を伝えるなど遊びの提案やこどもの好きな遊びを見つけ、1対1で関わりながら集団生活に慣れるよう働きかけています。</p> <p>こども同士のトラブルには、双方の気持ちを聞いたうえで、気持ちに寄り添っています</p> <p>発達の過程で生じるこども同士のトラブルには、双方の言い分を聞いたうえで、職員側で判断することなく、こどもの気持ちに寄り添えるよう話し合い、心がけています。また、こどもが使う言葉にも相手に対し強い言葉ではなく、正しく伝える言葉の提案やともに考えるよう関わっています。トラブルの場面で、不安を感じている周囲のこどもには、安心できる言葉をかけています。さらに、こども同士が問題解決に向け話し合えるよう働きかけています。職員は、こどもが気持ちの切り替えができ落ち着けるよう、別室で過ごすなど適切な対応に取り組んでいます。</p> <p>発達面で特に配慮が必要なこどもが、同じ場所で過ごし成長できる支援に努めています</p> <p>発達面で特に配慮が必要なこどもが、学童クラブの生活でほかのこどもと成長できるように、可能な限り同じ部屋で過ごすよう促し、援助しています。また、職員はインクルーシブな考えのもと、こどもたちが互いを思い、障がいの有無なく差別しない関わりを持つことを大切にしています。誰が過ごしても良い場所を設け、状況によってクールダウンできる場所の確保にも取り組んでいます。職員は、発達面で特に配慮が必要なこどもの個別ノートで情報を共有し、誰もが同じ環境と安心感のなかで過ごせる、こどもたちの居場所作りに努めています。</p>			
2	評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している	評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当	
評価項目2の講評			
<p>職員は、こどもが遊びを通し、目標に向かって挑戦、自発的に遊べる環境を整えています</p> <p>こどもの自主性・自発性を尊重し、発達に応じた遊びが展開できるよう取り組んでいます。職員は、こどもが製作した作品を展示する場所を設け達成感が味わえるようにしています。また、ぬり絵や将棋などのイベントでは、目標に向かって挑戦できる環境を整え、達成した時には、こどもたちの前で表彰式をおこなうなど、こどもの自信につなげ自己肯定感が高まる機会を設けています。さらに、2階の家庭科室では、勉強やお絵描きなどの製作スペースを設け、それぞれの目的に合った場所を確保し、自発的に遊べる環境を整えています。</p> <p>職員は、こどもが自ら集団活動に参加できるよう、声かけや褒める援助を心がけています</p> <p>職員は、こどもが自主的に集団活動に参加できるよう、個別に声をかけ、こどもの自主的な行動や、言動を積極的に褒めていく援助を心がけています。また、集団が苦手なこどもには、気持ちをしっかりと受け入れ、無理なく参加できるようスモールステップを踏みながら促しています。さらに、こどもの主体的な遊びが展開していくために、職員は行事の企画の段階からこどもに参加を促し、意見を吸い上げ、ともに行事を進めていく働きかけに取り組んでいます。職員は、遊びや行事などを通し、こどもの活動範囲の幅が広がるよう働きかけています。</p> <p>職員は、こどもの生活習慣が身につくよう、さまざまな働きかけに取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、コロナ過を機会に、こどもが自主的に基本的な生活習慣の習得ができるように、ハンカチの携帯率をあげる工夫をおこなっています。取り組みとしては、こどもの視覚に入りやすいよう「ハンカチポイント」を掲示し、手洗いの意識も高められるよう取り組んでいます。また、生活のなかで基本的な挨拶を交わすことも大切にしています。職員は、見本となるよう積極的に挨拶を交わし、こどもに促しています。そのほか、ロッカー内のランドセルの置き方の見本写真を掲示し、こどもが自然と整理整頓が身につくよう環境を整えています。</p>			

3 評価項目3

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

こどもが行事に対し、自発的に興味や関心を持てるよう働きかけ、環境を整えています

年間行事計画を作成し、こどもが自発的に参加できるように取り組んでいます。職員は、BOPだよりでイベントの告知や開催後の報告、こどもの活動の様子を掲載しています。また、行事のポスター掲示や、こどもが目にする所での準備など、行事に対して興味や関心を持てるよう働きかけています。児童館主催の行事「えんにち」では、こども自ら参加の申し込みや、手伝いに応募するなど、積極的な参加ができるよう促しています。さらに、イベントで制作した作品は、家庭に持ち帰り保護者とともに楽しめる機会を提供しています。

こども同士が協力し合い、達成感や自信につながるよう関わっています

児童館主催の行事「えんにち」を通し、出店するお店の小物を、手作り作品をこども自ら考える機会を設け、協力しながら準備をおこなうなど、こどもが積極的に活動できるよう働きかけています。また、踊ることが好きなこどもたちの「えんにちダンスチーム」を結成し、みんなの前でパフォーマンスを披露しています。曲選びは、こどもたちで考え、職員による踊りの見本や動画を視聴し、本番まで練習を重ねながら、互いに息を合わせ協力する経験を味わっています。職員は、こどもたちの頑張りを認め、自信につながるよう関わっています。

保護者には行事などの情報発信をおこない、こどもの成長を伝え共有に取り組んでいます

職員は、保護者に向けて月のBOPイベントのお知らせや、参加後の報告をBOPだよりで発信し、こどもの活動の共有に取り組んでいます。また、お迎えの際に行事やイベントが分かるようポスター掲示もおこない、情報発信に取り組んでいます。そのほか、こどもの取り組んでいる様子や、イベントを通して見られたこどもの成長を写真で見せるなど、保護者との共有を図っています。また、児童館主催の「えんにち」では、こどもと、一緒に行事に参加し、互いに楽しめるよう、PTAからの参加協力への声かけをしています。

4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

職員は、こどもが安心して学童クラブに通い、楽しく過ごせる環境を整えています

職員は、学校の門から出た場所で、学童クラブまでの交通安全管理とともに、こどもに声をかけ、挨拶を交わしながら、学童クラブへ行けるよう促しています。また、こどもとコミュニケーションを積極的に図りながら、学童クラブで遊びたいという気持ちが持てるよう関わっています。学童クラブでは「放課後児童システム」を用いて出欠席の把握をおこなっています。欠席が続いているこどもに対しては、必要に応じて、学校と連携を図り、家庭での様子や、欠席理由などの確認をおこない、こどもが安心して来所できる体制を整えています。

職員は、こどもが見通しを持ち、主体的に活動できるよう、分かりやすく伝えています

事業所では、こどもが活動の流れを理解できるよう、室内環境の工夫に取り組んでいます。こどもが見通しを持ち、主体的に遊ぶために一日の流れは、事業所とBOPのこどもとを分けたスケジュールをホワイトボードで掲示し、わかりやすく伝えています。おやつの中には、ベルを鳴らすなど遊んでいても分かるように全体アナウンスをおこない、次の行動に移れるように促しています。そのほか、時間帯によっては、遊べる玩具を制限し、ほかの遊びにも興味が広げられるように過ごし方を変え、こどもが主体的に過ごせる援助をおこなっています。

職員は、こどもが安心して遊べるよう安全管理し、新BOPとしての環境を整えています

職員は、こどもが事業所で安心して、遊べる環境の工夫に取り組んでいます。こどもが使う手洗い場やトイレなどは清潔に保ち、衛生面にも配慮し、快適に使えるようにしています。校庭で外遊びをする際は、表示物を見せ、安全に遊ぶための約束を伝えています。また、名札は室内に置いていき、誰が居ないのか職員が分かるよう、安全管理にも配慮しています。そのほか、放課後子供教室と一体型の運営をおこなっている学童クラブでは、こどもたちの遊ぶ場所を区別することなく、「新BOP」として同じ場所で過ごし、ともに遊べる環境を整えています。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>小学校の副校長や担任教諭との情報共有に努め連携体制を整えています</p> <p>事業所では、こどもが円滑に過ごせるよう、日頃から小学校の副校長先生や担任教諭と連携を図り、情報共有に努めています。新1年生が入学した直後は、こどもの情報を共有するために、対面での話し合いの場を設けています。また、こどもが遊ぶ目的で使用する体育館の使用許可など、施設管理でも連携を図り、事業所の活動に対する協力を得ています。小学校から事業所までの経路は、横断歩道で職員が見守りにあたり、安全に通うことができます。緊急時の際は、電話で連絡をおこない、学校と連携を図り、迅速な安全対策に努めています。</p> <p>職員は、小学校の教諭と連携を図り、こどもへの支援体制を整えています</p> <p>学校で問題を抱えているこどもや発達面で特に配慮が必要なこどもの支援をおこなう際、必要に応じて、事業所の児童指導職員が学校に行き、小学校の担任教諭と話す機会を設けています。担任教諭とは、支援方法についての情報共有を図り、事業所で過ごす生活がこどもにとってより良い支援体制作りに取り組んでいます。また、副校長先生とも、こどもについての情報交換をおこなっています。そのほか、保護者からの相談内容は、可能な限り小学校と共有を図り、支援方法や援助内容の検討をおこなっています。</p> <p>小学校と連携を図り、支援に対する情報共有に取り組んでいます</p> <p>発達面で特に配慮が必要なこどもについては、保護者や学校と情報共有をおこない、連携を図っています。事業所では、学校との連携を基本的とし、支援に対する体制を整えています。また、関係機関と連携をとる際は、保護者の了承を得るようにしています。そのほか、事業所では、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」や児童支援事業所「ぶらみんぼーと」のどちらかの巡回訪問の機会を年1回設けています。職員は、児童心理士の専門アドバイスを受けながら、こどもの特性や発達状況に合わせた支援に取り組んでいます。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>こどものおやつの時間を調整し、楽しく落ち着いて食べられる環境作りに努めています</p> <p>おやつは、世田谷区の児童課が一括購入し、事業所に提供する仕組みが整っています。職員は、おやつの時間をこどもに分かりやすく掲示をおこない、人数調整や時間配分をしながら、楽しく落ち着いて食べられる環境作りに努めています。提供するおやつの種類に関しては、こどもからおやつの要望を聞き取るなど、おやつ時間が楽しみになるよう取り組んでいます。長期休業の夏休みでは、週に1回程度の果物の提供をおこない、旬の味を楽しんでいます。また、季節感を味わえるアイスの提供などの配慮をしています。</p> <p>こどもの帰宅時間に合わせおやつの提供をおこない、安全面や衛生面に配慮しています</p> <p>こどもの帰る時間などを考慮して、おやつの提供時間を調整しています。また、夕食時間にも配慮をおこなっています。土曜に来所するこどもは、保護者が準備したおやつを持参しています。アレルギーのこどもがおやつを食べる際は、アレルギー専用の場所を用意し、おやつ後は、食べたおやつの袋を保管し、万が一の時の対応策に努めるなど、安全面に配慮しています。そのほか、おやつの準備は職員がおこない、手洗いの仕方の掲示をし、衛生面での管理に努め、安全に提供できるように取り組んでいます。</p> <p>アレルギー児への提供の際は、安全面に配慮をおこない、職員は研修を受講しています</p> <p>入会の際にはアレルギー調査票の内容を把握し、保護者とアレルギー面談をおこない、安全面に配慮したおやつの提供をしています。提供の際は、おやつの原材料のチェックを職員2名でおこなうなど、アレルギー対応チェック表に沿って安全対策に努めています。そのほか、おやつ提供に関わる全職員は、オンラインによるアレルギー研修を必ず受講し、アレルギー緊急時対応について学び、安全に提供できるよう取り組んでいます。受講した結果は、報告書として児童館長に報告し、安全管理の徹底に取り組んでいます。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
○あり ●なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>職員は、こどもたちが健康に過ごせる環境を整え、感染症予防対策にも取り組んでいます</p> <p>事業所では、こどもたちが健康に過ごせる環境を整えています。こどもたちには、ハンカチ携帯や正しい手洗いの仕方を伝え、習慣として身につけ、感染症対策に取り組んでいます。職員は、こどもが衛生面や健康面に関心が持てるように、継続した声かけをおこなっています。また、日頃から、こども自身が体調不良を感じた際は、職員に伝えられるように促しています。そのほか、室内でこどもが嘔吐した際は、ほかのこどもを別室に誘導し、嘔吐処理マニュアルに従って消毒をおこなっています。また、換気をするなど、感染拡大予防にも努めています。</p> <p>職員は、安全対策のマニュアルに沿い、迅速な対応に取り組んでいます</p> <p>事業所内で事故や怪我などが発生した際は、「世田谷区新BOP安全対策マニュアル」に沿って適切な対応に取り組んでいます。また、事故や怪我を見つけた職員は、児童指導職員に情報を共有し、迅速な対応に取り組んでいます。職員は、医療機関への受診が必要と判断した場合は、保護者に連絡し詳細を伝え適切な対応にあたっています。そのほか、児童課の看護師に、嘔吐処理の仕方やアドレナリン自己注射の取り扱い、てんかん発作対応など、事業所にあるものを活用して、実演を交えた巡回訪問の機会を設け、対応方法を学んでいます。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>職員は、保護者の就労に合わせた支援に努め、保護者同士の交流の場を設けています</p> <p>事業所では、年度が変わる際に、保護者の家庭の状況や就労状況の確認をおこなっています。また、個別の面談でも把握に努めています。保護者の就労などの状況で預かり時間が延長になる際は、必要に応じて柔軟に対応し、保護者が安心して預けられるように取り組んでいます。また、就労が土曜日に変わった際は、土曜の預かりにも対応しています。事業所では、保護者会を年に2回実施し、交流の場を設けています。最初の保護者会では、自己紹介の時間を設け、保護者同士が交流できるように配慮しています。</p> <p>職員は、保護者にこどもの様子を丁寧に伝え、共有し信頼関係の構築に取り組んでいます</p> <p>職員は、保護者の相談にできるだけ丁寧な対応を心がけています。相談内容は必要に応じて支援する体制も整えています。また、お迎えの際にも、こどもの様子を丁寧に伝えることを心がけ、信頼関係の構築につなげています。さらに、年度始め頃の小新BOPだよりでは、プレイングパートナーを含めた職員紹介をおこない、保護者に対して職員周知にも取り組んでいます。そのほか、年度終わりの保護者会では、1年間の学童でのこどもの様子やイベントに取り組んでいる姿などをスライドショーにして報告する機会を設け、こどもの成長した姿を共有しています。</p> <p>「放課後児童システム」を活用し、出欠管理をおこなっています</p> <p>世田谷区の「放課後児童システム」を活用し、こどもの出欠の把握や、管理をおこなっています。システム内では、こどもの入退出時間の連絡やお迎えが遅くなるなどの緊急時対応などの確認をおこなっています。また、こどもが出席予定で来所していない場合や連絡がない際には、保護者に電話連絡をおこない、出欠やこどもの状況確認の徹底に取り組んでいます。事業所では、こどもの安全確保のため、保護者との連絡を密におこない、出欠管理に取り組んでいます。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
○あり ●なし	2. 学童クラブの行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>児童館主催の「えんにち」に積極的に参加し、地域交流を図っています</p> <p>児童館主催の行事「えんにち」の開催の際、ブースを設けて子ども自ら参加の申し込みをおこない、出店の手伝いに積極的に参加するなど、地域交流に取り組んでいます。また、手作り小物の制作にも携わっています。さらに、子どもたちで構成する「えんにちダンスチーム」を結成し、みんなの前で踊りのパフォーマンスを披露するなど、貴重な体験をしています。そのほか、「えんにち」の行事では、ほかの4校の小学生とも自然と関わることができ、交流の場となっています。</p> <p>職員は、児童館を活用し、活動の場を広げてほしいと考えています</p> <p>職員は、児童館を活用し、子どもが退会後も活動の場を広げてほしいと考えています。児童館は、ほかの小学校の生徒や中学生の活動の場となっています。また、職員は4年生で退会した子どもが、自らの興味・関心の遊びの幅を広げ、活動できるように在籍の時から、退会後を見据えた支援につなげていきたいと考えています。さらに職員は、児童館との幅広い交流実現のために児童館職員と連携を図り、ドッチボール大会の企画や「えんにち」の行事を通して、子どもの生活の幅を広げていきたいと検討しています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもたちの生活向上のため、分かりやすい表示や指示の仕方に力を入れています	
内容①	子どもたちの生活と遊び場の充実を図るため、室内環境の整備に力を入れています。職員は、子どもたちがハンカチを携帯している場合、ポイント数を掲示し意識が高まるように取り組んでいます。また、ランドセルの置き方を写真で掲示し整理整頓を促しています。一日の流れや月のBOP予定カレンダー掲示では、日々の予定を分かりやすく伝えています。さらに、階段の上り下りの表示を設置し、安全に移動できるよう配慮しています。そのほか、遊びの基本ルールの掲示ではふりがなを振るなど、楽しく遊ぶための環境作りに取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	事業所では、こどもの主体的な遊びが展開する環境作りに力を入れています	
内容②	事業所の育成目標では、日常生活や遊びを通して、異年齢での活動や仲間づくりを進めることを掲げています。また、遊びを通し、創造性や自立性を養って欲しいと考え、育成目標の実現のために、こどもの発達段階に合わせた主体的な遊びが展開する環境作りに力を入れています。職員は、事業所内の遊びの充実を図り、こどもが主体的に行動し、過ごしたい場所選びの支援にも取り組んでいます。さらに、職員は、こどもの遊びの様子に合わせた動きや働きかけ方を工夫し、事業所で経験したことが、こどもの成長へとつながる支援に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル③	保護者との信頼関係を重視し、職員の接遇力と連携を高める組織的な取り組みがあります	
内容③	事業所では、保護者との信頼関係の構築に重点を置いた組織的な取り組みがあります。保護者からの連絡は必ず名前を確認して折り返し本人確認を徹底しています。伝達事項は必ず記録し、責任を持って対応しています。保護者会や個人面談を通じてこどもの成長を共有し、信頼関係を深めています。また、学校とも連携を図り、三者間の顔の見える関係づくりを進めています。職員の接遇能力向上のため、自治体主催の若手職員接遇研修に参加しています。日々の連携を大切に職員間で言葉遣いなどを相互に注意し合い、風通しの良い職場づくりに努めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員は、子どもとコミュニケーションを図り、育成支援の自立に向け働きかけ、子どもの成長へとつながるように関わっています
	内容	職員は、子ども一人ひとりの気持ちを汲み取り、子どもがしたいこと、また職員がして欲しいことなど、コミュニケーションを図りながら、アイメッセージで関係性を築いていくことを大切にしています。また、職員は、育成支援の自立に向け、子ども自身が周りからどのように見られているのか、どう見られたいのかが意識できるよう働きかけています。さらに、職員は、事業所での生活や遊びを通し、子どものありのままの姿を受け止め、前向きなところや後ろ向きなところも合わせて、すべてが子どもの成長へとつながるように関わっています。
2	タイトル	柔軟な対応で保護者支援に取り組み、保護者の協力を得ながら連携し、子どもの自立に向けた育成支援に取り組んでいます
	内容	保護者の就労状況や家庭の事情に合わせて柔軟に対応し、保護者支援に取り組んでいます。急な時間変更や延長にも迅速かつ丁寧に対応をおこない、保護者の安心につなげています。また、個人面談やお迎えの際、会話などで保護者とコミュニケーションを積極的に図り、相談しやすい雰囲気作りを心がけています。保護者とは、子どもの状況や成長について共通認識を図り、相互の信頼関係の構築に努めています。さらに、職員は、保護者の協力を得ながら連携を図り、子どもの成長に合わせ、自立に向けた育成支援に取り組んでいます。
3	タイトル	職員間の連携強化と情報共有を重視した風通しが良く働きやすい職場づくりに取り組んでいます
	内容	事業所では、職員間の連携強化と情報共有を密にする組織的な取り組みがあります。職員の性別や年齢層がバランス良く、ベテラン職員が若手職員に積極的に声をかけ、互いに理解し合い助け合う関係性と環境を整えています。ミーティングでは積極的な意見交換をおこない、ICT環境の整備によりメッセージングアプリやオンラインでのフォローも実施しています。突発的な対応にも迅速に役割分担ができる体制を整えています。また、上長との相談しやすい雰囲気づくりにも努め、即断即決の対応により、職員のモチベーションの向上を図る取り組みがあります。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員は、子どもの遊びが豊かに展開する環境作りや、子どもの意見を吸い上げる仕組みを整え、育成運営に活かすことを目指しています
	内容	職員は、事業所の生活のなかで、子どもが自発的、自主性を持ち遊びが豊かに展開する環境作りに取り組んでいます。また、事業所で提供する玩具の選定や内容の工夫にも取り組んでいます。今後は、さらなる改善を目指し、子どものニーズに合わせた玩具の選定や遊びの環境をさらに整えていきたいと思案しています。玩具について職員は、子どもの意見を吸い上げる仕組みを整え、実現に向けた実践に取り組むことを検討しています。さらに、イベントなどの企画を通し子どもの興味、関心を把握、理解したうえで育成運営に活かすことを目指しています。
2	タイトル	組織的なまとまりと方向性の共有を重視し、時代に即した理念の再解釈と深化を目指す組織的なさらなる取り組みに期待します
	内容	自治体の公設公営としての根本理念を全職員が理解しつつ、時代の変化に合わせた理解や解釈をより深めるための取り組みを進める予定があります。新BOPとして学童クラブの位置付けが変化する中で、規則や基準をしっかりと維持しながらも、理念や方針に対する職員の意識の形骸化を防ぐ努力をしています。組織的なまとまりと方向性の共有を重視し、理念や方針の理解が薄れないよう定期的な確認をおこなっていますが、職員同士が方向性について話し合うことで、より一層時代に即した学童保育サービスの提供を目指す取り組みに期待します。
3	タイトル	全職員に対して個別育成計画の策定をおこない、職員自身が成長の見通しを持ち、意欲向上につなげる人材育成への取り組みに期待します
	内容	自治体の「世田谷区人材育成方針」で各職員のスキルアップ目標や期待される役割、キャリアパスなどを明示し、職員の成長と事業所の発展を同時に図ることを目指しています。常勤職員に対しては個別の育成計画がありますが、今後は、指導員やプレイングパートナーを含む全職員に対して、自治体の基準だけでなく職員ごとの個別育成計画の策定に向けた取り組みに期待します。施設としてのさらなるレベルアップを目標とし、職員個々の育成計画作成による成長の見通しを持ち、意欲向上につなげる仕組みづくりを進める取り組みに期待します。